

人権だより

〈題字〉高松市長 大西 秀人

発行 2023(令和5)年3月
事務局 高松市番町一丁目8番15号
高松市市民政策局人権啓発課内
TEL(087)839-2292

人権尊重都市たかまつ市民会議
www.jinkensoncho-takamatsu.com

人権尊重都市たかまつ市民会議 検索

第9号

2022年度 人権作品

書道の部

ポスターの部

高松市立栗林小学校4年

内藤 綸香さん



高松市立川添小学校6年

ふじめりあ 藤目 琳愛さん

本年度の活動

【2022年】

- 5月9日.....役員会
- 5月17日~27日.....総会(書面開催)
- 6月30日~7月1日.....第69回四国地区人権教育研究大会(書面開催)
- 8月2日.....人権・同和教育講演会
- 9月27日.....人権作品選定会(ポスター・書写)
- 10月6日.....人権作品選定会(作文)
- 10月25日.....第37回香川県人権・同和教育研究大会
- 11月26日~27日.....第73回全国人権・同和教育研究大会(奈良県)
- 12月6日~11日.....人権作品展(IKODE瓦町)
- 12月14日.....部落解放第38回香川県講演会

【2023年】

- 1月22日.....スマイルフェスティバルinたかまつ(ミュージックホール)
- 3月6日.....人権だより第9号発行

二〇二二年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、「スマイルフェスティバルinたかまつ2022」は、感染症対策を徹底しながら開催することができました。

また、「人権作品展」では、子どもたちや市民の方々から想いの詰まった作品が数多く寄せられ、前年度よりも多くの方に「買いたく」とご寄附いただき、市民の方々の人権意識の高揚がより顕著なものと、うれしく思っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別、さらには同和問題をはじめとした様々な人権問題の中でも情報化等の進展に伴うインターネット上での差別的な表現の書き込みやプライバシーの侵害など、新たな形態の人権侵害が多数発生するようになり、人権問題はますます多様化・複雑化しております。このような行方は重大な人権侵害であり許されるものではなく、本市民会議も自治体や地域と一体となって差別解消に努めていく必要があります。

今後におきましても、「人権尊重都市たかまつ」の実現をめざして、教育機関や各種団体、行政などと連携協力しながら全ての差別をなくし、人権を尊重する市民意識の広がりや人権文化の普及に努めてまいりたいと考えておりますので、市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

会長挨拶

人権尊重都市たかまつ市民会議
会長 角田 朝則



~広げよう!つなげよう!人権の輪!~を開催しました。

●とき 二〇二三年三月二十二日(日)
●ところ 香川県教育会館ミュージックホール

人権尊重都市たかまつ市民会議では、人権イベント「スマイルフェスティバルinたかまつ2022」を「つなげよう!人権の輪!」を開催しました。

このイベントは参加した誰もが笑顔になり、その笑顔がつながり、広がるようにという願いが込められています。新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底したうえで、当日は子どもから大人まで多くの方々に参加いただきました。

オープニングの「スイングベル」に続いて、ステージイベントの前半は、生徒による人権劇、幼児とその保護者

新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。
※会場内は、マスク着用、手洗消毒、3密回避にご協力ください。

2023年1月22日(日) 香川県教育会館ミュージックホール (高松市高松区2丁目5番40号)

15:00~16:00 落語家 桂こけ枝 さんの「ほのぼの人権噺」

ステージプログラム 13:30~

- 香風ミュージカル ミュージックバンド演奏(3曲)
- 香川県立高松工業高等学校演劇部 人権劇「カワル」
- 高松市立空堀南小学校 歌・ダンス「みんなのいのちのせい」
- 国分寺文化センター 児童劇団スマイル・ハント ペーパーサート劇「豆わらし」
- 人権作文朗読 高松市立香東中学校 2年生生徒

主催/人権尊重都市たかまつ市民会議 高松市教育委員会 後援/四国新聞社
お問い合わせ/人権尊重都市たかまつ市民会議事務局(高松市人権啓発課)TEL:087-839-2292 高松市教育委員会 人権啓発課 TEL:087-839-2640



人権・同和教育講演会

●とき 二〇二二年八月二日(火)
●ところ 高松市立二宮小学校及び
各高松市立小・中学校・幼稚園・こども園(オンライン)



今年度も新型コロナウイルス感染症対策により、オンラインでの開催となりました。約二百名の参加者を対象に、中倉茂樹さん(徳島県人権エンタメ集団「友輝」リーダー)から「止場の生み出すもの マイナスをプラスに変えていく学習」という演題のもと、講演をいただきました。

お話のなかで、高校時代の恩師との出会いがその後の人生に大きく影響を与えたという話があり、「人との出会いで人は変わる」という言葉をいただきました。受講者からは、「これからは人とのつながりを大切にして、さらになかまの輪を広げていきたい」と、前向きな感想が多く寄せられました。



人権作品展

●とき 二〇二二年十一月六日(火)~十一月十一日(日)
●ところ IKODE瓦町 (瓦町FLAG八階)



幼児児童生徒の皆さんからポスター、書写、作文及び市民の方々から人権メッセージを募集したところ、三八九点の応募がありました。それらを十二月の人権週間(毎年十二月四日~十日)に合わせて、市民交流プラザ(「IKODE瓦町」)に展示しました。

応募していただいた作品は、どれも人権尊重の視点に基づき、人権の大切さを訴えているものばかりでした。開催期間中、多くの市民の方々にご覧いただき、広く人権意識の普及・高揚を図ることができました。



2022年度 人権作品 作文部門

2022年度 人権作品 書写部門

2022年度 人権作品 ポスター部門

私がつくる未来

高松市立三溪小学校 五年 河田 彩華さん

私のおばあちゃんは病気で声たれ、をどつしどつしたのでしゃべることが出来ません。私が小さい時には、おばあさんとたくさん話をすることが出来て、おばあさんの口を動かして、声を出すことが出来ません。しかし、ずつとづつと、おばあさんの口の動きで、だいたい何が言いたいのかわかるようになり、今は人工いんとうという機械を使えば、おばあさんは話をすることが出来ます。だから、おばあさんは家の中では困ることはなくなり、私も小さかった頃のようにたくさん話をすることが出来るので、外に出かける時にはしゃべることが出来ません。一生けん命口を動かして、話を伝えてあげようとするのですが、相手には伝わりません。だからおばあさんが出かける時には必ずおじいちゃんがつきそつて、おばあさんの言いたいことを代わりに伝えてくれます。私はずれを見ていて、おばあさんは家の中ではだれかに助けてもらわなくても困ることはないのに、外に出るとだれかの助けがなければ、困ってしまうという事に気付きました。そして、おばあちゃんがしゃべれないことが「障がい」なのではなく、おばあちゃんかしゃべれないことで困ってしまう、その状態のことを「障がい」というのではないのかと思いました。そうすると、例えば、車いすの人が自分であげられない階段があることや、目の見えない人がたよりにしている点字ブロックの上で自転車が置いてあるなど、私の周りにはたくさん「障がい」がある事に気が付きました。

おばあちゃんが外で人工いんとうを使いたくないと思うことについても、私の心の中にある「人工いんとうの声は本当の声ではなくて変な声だな。」と思ってしまったり、なことも両方、外に出にくくしているバリアなのだと思えました。世の中には、人をそれぞれの困り感や価値観の違いがあつて、そのことで生きづらくなっている人がたくさんいると思います。目の前に困っている人がいる、いろいろな状況を想像すると、たくさん人の困りごとが見えなくなります。私が買い物に行つた時、高い所にある商品を、今まで一人で取ることができませんでした。しかし、お店に子供用の台があつたり、親が助けてくれたりして、この事に私は気が付きました。

だから、私はこれからもつとつと周りをよく見て、何が出来るのかを考えて、と思ひます。そうすれば、だれにとつとも優しい社会をつくることができます。それは、お互いに関わり合い、協力しようとする社会です。外に出にくくなつて、おばあちゃんだけだけでなく、困りごとのある人たちも笑顔で外へ出ていけると思ひます。まずは、私の心の中にある偏見の心をなくして、ありのままのおばあちゃんを、これからもずっと好きでいたいです。



香川県立香川中央高等学校 1年 岡 柚希さん



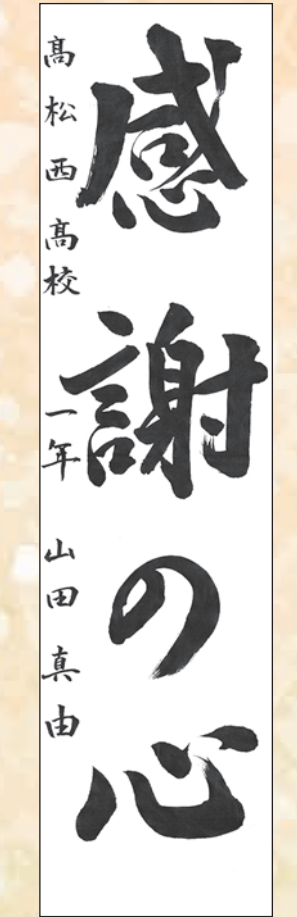
高松市立紫雲中学校 1年 北島 美緒さん



高松市立木太中学校 2年 女賀 結菜さん



香川県立三木高等学校 1年 三原 百華さん



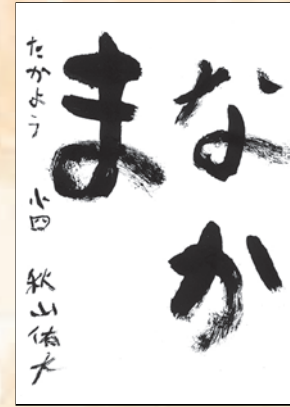
高松西高校 1年 山田 真由さん



高松市立太田南小学校 2年 宅和 駿さん



高松市立牟礼中学校 3年 佐々木 彩花さん



香川県立高松養護学校 小学部 4年 秋山 侑大さん



高松市立国分寺北部小学校 5年 平松 葵さん



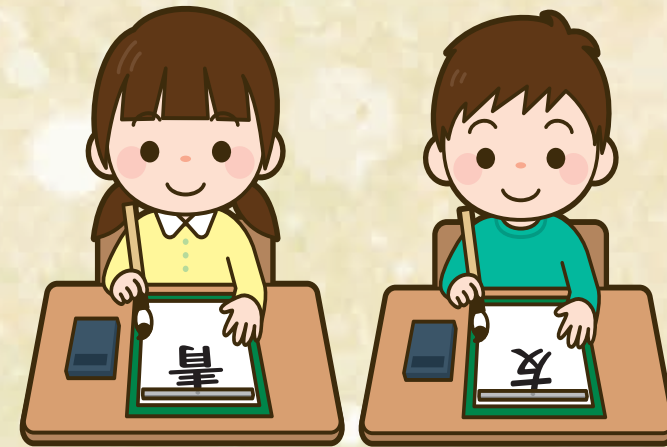
高松市立太田小学校 6年 宮脇 雛乃さん



香川県立高松養護学校高等部 3年 河本 康佑さん



高松市立中央小学校 3年 小原 璃子さん



高松市香南こども園 4歳児 こあら組



香川県立高松養護学校 中学部 3年 古川 和さん



香川県立香川中央高等学校 2年 安藤 美咲さん



高松市立屋島中学校 1年 福島 楓花さん



高松市立下笠居中学校 2年 石川 航也さん



高松市立高松第一小学校 4年 溝渕 悠花さん



高松市立三溪小学校 2年 瀬戸 仁愛さん

男子も女子もない社会

香川県立高松高等学校 一年 橋本 綺乃さん

ジェンダーフリーについて、私は今までそれほど意識したことはなかった。家庭でも両親はお互いに堂々と意見を主張し合っているし、「女の子らしく」という嫌味を受けた実感もなく、人として自立して生きていけるようという親の願いだけを感じている。しかし社会のコースに目を向けたら、医学部の男子受験生優遇問題や、世界経済フォーラムの調査結果による日本のジェンダー平等が146か国の内116位など、世界有数の経済大国にも関わらず日本人の心の中にある女性に対する差別意識が根強いことを思い知らされる。私たちが羽ばたいていく社会がこのような状態だと思つて暗澹たる気持ちにさせられる。

この問題の難しさは、表面的に同じ権利を手えようとしても、現実的に男女には歴然とした物理的な力の差があることだと思つた。私は入学して間もない頃、塾の帰りにいつものように電車で帰宅していた。コロナ禍のため終電が早くなったため、22時過ぎに多くの乗客が乗車してきた。その中には数人の泥酔者もいた。足元のふらついた彼らにあつた間に、席を移動した方がよく、迷つていたその時、その中の一人が急に嘔吐した。目的の駅に着くまでの間、私は四月に買ったばかりの新しい制服のスカートを見つめてじつじつとした。それ以来両親は私が塾で遅くなるたびに車で迎えに来てくれる。私は「ふと」もし男子なら親はそこまで心配する必要もなく、息子の力を信じていることができるだろう。折角の通学定期を夜使つことは事実上ほとんどなく、夜遅い電車に乗ることができず、折角の通学定期を夜使つことは事実上ほとんどなく、ささやかな親の心配は、昨今の女性が巻き込まれる事件を思えばもつともであり、結局は女性の自由な行動を制限している。現に一部の私立の進学校の中には男子寮はあるが女子寮はないし、大学進学や留学で一人暮らしをする時も女子であれば親は立地や設備の安全を考えて、より多くの支出をさくことになるだろう。

社会の未熟さに比べて、学校では男女の違いを認め合い、お互いに協力できる関係を感じる事ができている。男子の友達には重いものは何も言わずに運んでくれ、女子も助けてもらった自分ができることを生懸命やつて、男子と女子、違う特性を持つままでも、協力し合える小さな社会がある。入学式の際には列に並んで驚いた。前も男子、後ろも男子。中学校の卒業式で女子一列で入場したか月後にたただの名簿順で男子も女子もない集団になった。甘えが許されないピリツとした緊張感を感じたが、これが私たちがこれから生きていく社会への歩だと感じ胸が高鳴った。互いに認め合いながら、どうしたら世界に肩を並べるジェンダーフリーな社会に近づけることができるのか、このなにかと共に関心も考えたいと思つた。